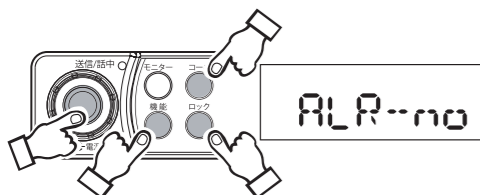


リセット方法

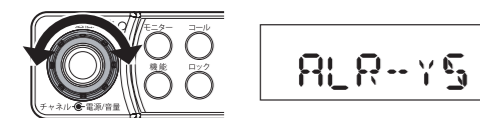
本機の状態を全て初期状態に戻すことができます。この操作を行うと設定を元に戻すことはできません。

- 1 電源・音量ツマミを押し、電源を切ります。
- 2 コールキー、機能キーおよびロックキーを押したまま、電源・音量ツマミを押し、電源を入れます。

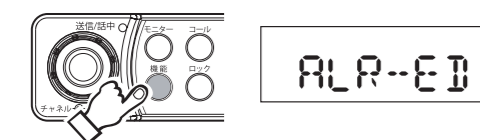


- 電源が入り、リセットの設定が表示され、【NO】が表示されます。
- リセットを行わない場合、【NO】が表示されてるときに機能キーを押してください。リセットがキャンセルされます。

- 4 設定変更ツマミを回し、設定を【YS】にします。



- 5 リセットするには、機能キーを押します。



- 設定が初期化されます。

- 6 電源・音量ツマミを押し電源を切り、再度電源・音量ツマミを押し電源を入れます。
- 本機のリセットを行っても、設定していたモードは保持されます。ただし、モードの設定内容は初期化されます。

故障とお考えになる前に

サービスを依頼される前に、ご面倒ですが、リセットを一度実行された後に、次のことをお調べください。
下記の項目をチェックしても直らない場合は、お買い上げになった販売店にご相談ください。

- 電源が入らない
 - 電源コードが外れている。→電源コードと電源端子が接続されていることを確認してください。
 - 外部電源コードのヒューズが切れている。→新しいヒューズ(1A)に交換してください。
- 受信できない
 - 送信または受信のチャンネルが相手の方と合っていない。→相手の方とチャンネルと合っているかご確認ください。
 - 電波が届かない。→相手の方が離れ過ぎていないかご確認ください。
 - 地下やトンネル内である。→地上やトンネルの外に出てから受信してください。
- 音が出ない
 - 音量が小さい。→音量を調整してください。
 - 外部スピーカーの接触不良。→端子を乾いた布で拭き、しっかり差し込んでください。
 - トーンが相手の方のトーンと合っていない。→相手の方のトーンと合っているかご確認ください。

製品仕様

一般仕様

送受信周波数.....単信：20Ch、半複信：27Ch、複信：27Ch
(制御チャンネル含まず)
電波形式.....F3E、F2D (制御チャンネルはF2Dのみ)
通信方式.....単信方式、半複信方式、複信方式
定格電圧.....DC 12.0V ~ 24.0V
発振方式.....水晶発振により制御する
周波数シンセサイザー方式

周波数の許容差.....±4.0ppm
寸法.....幅 115mm 高さ 27mm 奥行き 145mm (突起物含まず)
質量.....約 0.6kg (ブラケット含まず)

受信部

受信方式.....ダブルスーパーヘテロダイン方式
中間周波数.....23.05MHz (1st IF)
450kHz (2nd IF)
受信感度.....-5dBμ 以下 (12dB SINAD)
スケルチ感度.....-7dBμ 以下
受信出力 (8Ω 負荷).....2W 以上 (8Ω 負荷)
副次的に発する電波等の限度.....4nW 以下

送信部

送信出力.....10mW 以下 (10mW 設定時)
1mW 以下 (1mW 設定時)
占有周波数帯幅.....8.5kHz 以内
スプリアス発射の強度.....2.5μW 以下
最大周波数偏移.....±2.5kHz 以下
識別符号伝送速度.....2400bps (MSK 方式)
マーク周波数 (1200Hz)
スペース周波数 (2400Hz)
トーン周波数.....67.0Hz ~ 250.3Hz (38 波中 1 波)
通話時間タイマー.....3 分 (10mW 設定時)
無制限 (1mW 設定時)

オプション

CSK500.....外部スピーカー (8Ω 3W)
CSM510 B.....スタンドマイク (マグネット付き)
CSM520 B.....ブームマイク (マグネット付き)

保証・アフターサービスについて

- この商品には、保証書を添付しています。保証書は、「お買い上げ販売店印・保証期間」をご確認のうえ、お受け取りください。
- 保証書は、よくお読みのうえ大切に保管してください。
- 保証期間は、お買い上げの日より一年間です。正常なご使用で、この期間内に故障したときは、お買い上げになった販売店または CSR カスタマーサポートセンターで保証記載事項に基づき「無料修理」いたします。
- 保証期間経過後の修理は、修理により機能が維持できる場合、ご要望により有償修理いたします。
- 補修用部品の詳細・ご贈答・ご転居等によるアフターサービスについての不明点は、お買い上げになった販売店または添付の CSR カスタマーサポートセンターにご遠慮なくご相談ください。
- この商品は、無線設備規則第 49 条 14 に基づき、容易に開けられない構造になっています。そのために特殊なネジにより組み立てられています。アフターサービスの際は、必ずお買い上げ販売店または CSR カスタマーサポートセンターにお問い合わせください。
- この商品の補修用性能部品は、製造打ち切り後 8 年間保有しております。

CSR カスタマーサポート

0120-973-698

e-mail : wavecsr_support@kcsr.co.jp

ご相談受付時間
9:00 ~ 17:00
(土日祝日を除く)

wave CSR

特定小電力無線電話装置 GX100 簡易取扱説明書

このたびは、特定小電力無線電話装置 GX100 をお買い上げ頂きまして誠に有難うございます。
この製品につきまして、万一御不審な点がありましたら、なるべくお早めにお買い上げ頂いた販売店あるいは CSR カスタマーサポートへお問い合わせください。

株式会社 CSR

〒252-0303 神奈川県相模原市南区相模大野 5 丁目 33 番 4 号
当社の最新情報をインターネット上で閲覧できます。
<http://www.kcsr.co.jp/>

Printed in Japan 2017/10

73BC851013

安全上のご注意

- ご使用前に必ずこの「安全上のご注意」と「取扱説明書」をよくお読みの上、正しくお使いください。
- お読みになった後はいつでも取り出せる場所に保管してください。

絵表示について

この「安全上のご注意」では、製品を安全に正しくお使い頂き、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

	警告	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
	注意	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負ったり、物的損害の発生が想定される内容を示しています。

■本文中に使われている絵表示の意味は、次のとおりです。

	禁止		ぬれ手禁止		水ぬれ禁止
	分解禁止		風呂、シャワー室での使用禁止		注意
	感電注意		指示を守る		ケーブルを抜く

警告

- 病院内や航空機内など、使用が禁止されている場所では、この機器の電源を切ってください。医療機器や電子機器の動作に支障をきたす恐れがあります。
- 万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。すぐに電源ケーブルを抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対おやめください。
- 万一、機器の内部に水などが入った場合は、まず電源ケーブルを抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電・故障の原因となります。
- 万一、異物がこの機器の内部に入った場合は、まず電源ケーブルを抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電・故障の原因となります。
- 万一、この機器を落としたり、破損した場合は、電源ケーブルを抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電・故障の原因となります。

- この機器を分解・改造しないでください。火災・感電・故障の原因となります。
- 電源ケーブルを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったりしないでください。火災・感電の原因となります。

- この機器を水につけたり水道やシャワーなどの水流を直接かけることは避けてください。火災・感電・故障の原因となります。水に濡れた場合は、水滴を早めに乾いた柔らかい布で拭き取ってください。

- この機器の上や近くに水などの入った容器または小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災・感電・故障の原因となります。

- 電源ケーブルの上に重いものをのせたり、ケーブルがこの機器の下敷きにならないようにしてください。ケーブルに傷がついて、火災・感電の原因となります。ケーブルの上を敷物などで覆うことにより、それに気付かず、重い物をのせてしまうことがあります。
- この機器の上でろうそく等の炎が発生しているものを置かないでください。火災の原因となります。

- 濡れた手でこの機器の電源ケーブルを取り付け・取り外ししないでください。感電の原因となります。

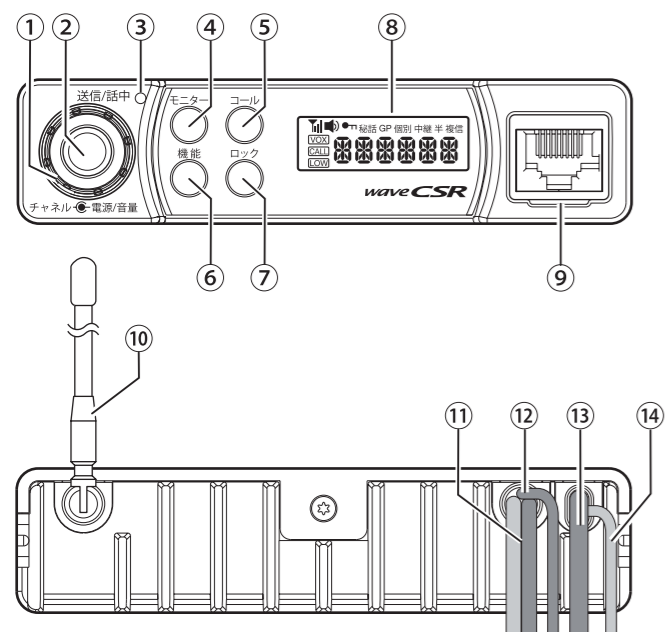
- 本機の分解は、電波法で禁止されています。絶対に行わないでください。改造した機器を使用した場合は、電波法により罰せられますので、ご注意ください。
- 本機は、特定無線設備の技術基準適合証明等に関する規則(証明規則)第 2 条 8 号「工事設計の認証(認証)を受けた無線局」です。本機の天面に貼られている証明ラベルは絶対にはがさないでください。

注意

- この機器が近くのテレビ・電子機器・医療機器等に影響を与えるときは、ご使用にならないでください。
- 長期間、この機器をご使用にならないときは、安全のため必ず電源ケーブルを抜いてください。
- お手入れの際は安全のため電源ケーブルを抜いて行ってください。
- 移動させる場合は、電源ケーブルを抜き、外部の接続線ははずしたことを確認の上、行ってください。ケーブルが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
- 湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。
- 乳幼児の手の届かないところで、使用・保管してください。
- 不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けが・故障の原因となることがあります。
- 振動・衝撃の多い場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けが・故障の原因となることがあります。
- 電源ケーブルを熱器具に近づけないでください。ケーブルの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

- アンテナが誤って、目にささらないようにしてください。

各部の名称と動作説明



① 設定変更ツマミ

- チャンネル、トーン等の設定を変更します。

② 電源・音量ツマミ

- 押し、電源の入・切を行います。
 - ・イグニッションケーブルが接続されている場合、本体の電源スイッチは無効になります。
- 右(時計方向)に回すと、音量が大きくなります。
- 左(反時計方向)に回すと、音量が小さくなります。

③ 送信 / 話中表示

- 本機の状態を表示の色と点灯・点滅の組み合わせでお知らせします。

赤色	点灯	送信中
赤色	点滅	接続動作中(複信通信動作 [※] 設定時)
緑色	点灯	受信中
緑色	点滅	他の人がチャンネル使用中(複信通信動作 [※] 設定時)
橙色	点灯	中継中 通話中にモニターキーを押下した時(複信通信動作 [※] 設定時)

※本機がフルデュプレックスモード設定時、複信通信動作になります。

④ モニターキー

- このキーを押すと強制的に受信音を聞くことができるモニター状態(スケルチ解除状態)になります。
- 送信 / 話中インジケータが消灯時にこのキーを押すと、「ザー」という音がして電波の有無の状況が確認できます。

⑤ コールキー

- 相手を呼び出すときに押します。
- 通話を終了するときに押します。

⑥ 機能キー

- このキーを押してから、設定変更ツマミを回し、チャンネルやトーン変更します。
 - ・変更できる箇所は、点滅します。
 - ・変更を確定するには、再度このキーを押します。元の状態に戻ります。
 - ・その他変更を確定するには、次のようにおこないます。電源を切り、再度入れる。または、そのままの状態ですら4秒以上放置させます。
- このキーを押しながら電源を入れると、各機能の設定モードに入ります。設定モードを終了するには、電源を切ります。

⑦ ロックキー

- このキーを3秒以上押すとキーロック状態になります。
 - ・キーロック中は、表示部に **On** が表示されます。また、コールキー以外は使用できなくなります。
 - ・キーロックを解除するには、このキーを3秒以上押します。

⑧ 表示部

- チャンネル番号、トーン番号、キーロックなど本機の状態を表示します。
 - 詳細は、本ページの「表示部」をご覧ください。

⑨ 外部マイク端子

- 外部マイクを接続します。

⑩ アンテナ

- このアンテナは、可倒式になっています。アンテナを回して、本機を取り付けやすい位置や良く受信する位置にします。

⑪ 電源ケーブル

- 直流(DC) 12V系または24Vの電源と接続します。これ以外の電源には絶対に接続しないでください。

⑫ 接地用ケーブル

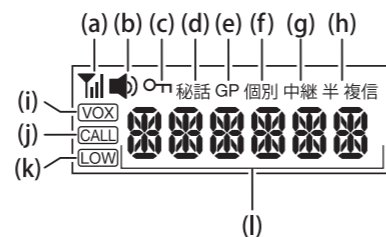
⑬ 外部スピーカー用ケーブル

- 付属の外部スピーカーを接続します。

⑭ イグニッションケーブル

- 車両でお使いの場合、車両の電源投入に連動して自動的に電源を入れることができます。

表示部



(a) 信号強度表示

- 受信した信号の強度を表示します。
- (弱) $\uparrow \leftrightarrow \uparrow \leftrightarrow \uparrow \leftrightarrow \uparrow$ (強)

(b) モニター表示

- モニター状態のときに表示されます。

(c) ロック表示

- キーロック状態のときに表示されます。

(d) 秘話表示(複信通話時)

- 秘話機能が設定されているときに表示されます。

(e) グループ表示(複信通話時)

- グループ機能が設定されているときに表示されます。

(f) 個別表示(未使用)

(g) 中継表示

- 中継器動作のときに表示されます。

(h) 半複信 / 複信表示

- 半複信通話または複信通話機能が設定されているときに表示されます。

(i) VOX 表示

- VOX機能が設定されているときに表示されます。

(j) CALL 表示(複信通話時)

- 複信通話の通話中に表示されます。

(k) LOW 表示

- 送信出力が1mWのときに表示されます。

(l) 14 セグ表示部

- 設定内容などが表示されます。

本体付属品

スピーカー (CSK500)、電源ケーブル(FUSE: 1A 付き)、本体取付金具、本体取付金具用ビス一式、簡易取扱説明書(本書)、保証書

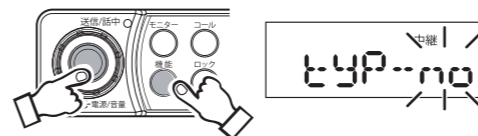
その他の設定

設定変更方法

本機は各モードに合わせて、各種の設定を変更できます。モードにより、設定できる機能および設定内容は異なります。

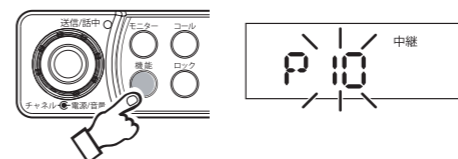
① 電源・音量ツマミを押し、電源を切ります。

② 機能キーを押したまま、電源・音量ツマミを押し、電源を入れます。



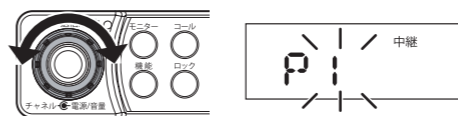
- 電源が入り、機能の選択が表示されます。設定しているモードにより、表示される機能は異なります。

③ 機能キーを何度か押し、設定したい機能の表示にします。



- モニターキーを押すと逆の順序で機能が選択できます。

④ 設定変更ツマミを回し、設定を変更します。



⑤ 機能キーを押し、変更した内容を決定します。

- 次の機能が表示されます。

⑥ 手順③～⑤を繰り返し、各設定を変更します。

⑦ 電源・音量ツマミを押し、電源を切ります。

- 電源を切っても再度電源を入れると、設定した内容で動作します。

各モードの設定

■シムプレックスモード

項目	設定値	初期値	表示部
VOX 設定	oF: 無し、on: 有り	無し	VOX--oF
VOX 感度設定	1(低感度)～5(高感度)	3	SEN5-3
マイク感度設定	1(低感度)～5(高感度)	3	AFL --3
受信専用設定	oF: 通常、on: 受信専用	通常	RCV--oF
被呼通知音設定	oF: オフ、on: オン	オフ	RbP--oF
送信開始音設定	oF: オフ、on: オン	オン	TbP--on
PTT 機能設定	PT: PTT、TG: トグル動作	トグル	PTT--TG

■セミデュプレックスモード

項目	設定値	初期値	表示部
マイク感度設定	1(低感度)～5(高感度)	3	AFL --3
受信専用設定	oF: 通常、on: 受信専用	通常	RCV--oF
被呼通知音設定	oF: オフ、on: オン	オフ	RbP--oF
送信開始音設定	oF: オフ、on: オン	オン	TbP--on
PTT 機能設定	PT: PTT、TG: トグル動作	トグル	PTT--TG
送信出力設定	1: 1mW、10: 10mW	10mW	P 10

■リピーターモード

項目	設定値	初期値	表示部
チャンネル設定	チャンネル: 1~27 トーン: 01~38	1 無し	c 1--ch
シグナリング設定	cr: キャリア、to: トーン	キャリア	Sr--cr
受信専用設定	no: 通常、ro: 受信専用	通常	typ--no
送信出力設定	1: 1mW、10: 10mW	10mW	P 10
スキャン チャンネル設定	oF: スキャンなし、 スキャンチャンネル: 1~27	無し	SC--oF
チャンネル表示設定	1~5	1	C--1
回線保持設定	oF: 回線保持送信無し、 on: 回線保持送信有り	有り	td--on
スケルチ感度設定	1: 高感度、2: 低感度	高感度	SQL--1
マイク感度設定	1(低感度)～5(高感度)	3	AFL --3
PTT 機能設定	PT: PTT、TG: トグル動作	トグル	PTT--TG
クイック動作	on: オン、oF: オフ	オン	Qck--on

■フルデュプレックスモード

項目	設定値	初期値	表示部
グループ設定	1～9: グループ番号、 --: 無し	無し	ld --
マイク感度設定	1(低感度)～5(高感度)	3	AFL --3

応用の操作

モニター

スケルチを一時的に解除して弱い電波をモニターしたり、混信の有無を確認することができます。

- 1 アンテナの向きが正しいことを確認します。
- 2 待ち受け表示になることを確認します。
- 3 モニターキーを押します。



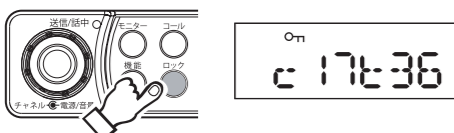
- モニター状態になり、【】が表示されます。
 - 何も受信していない場合、「ザー」という音がスピーカーから聞こえます。弱い電波を受信している場合、「ザー」という音に混じって送信の内容が聞こえます。
- 4 モニター状態を解除するには、**モニターキー**を押します。
 - スピーカーから聞こえていた音が止まり、【】が消えます。

キーロック

本機の誤操作を防ぐために、ツマミやキーの操作ができなくなるキーロック機能があります。

キーロック中は、**ロックキー**と**コールキー**のみ使用可能です。

- 1 **ロックキー**を3秒以上押します。



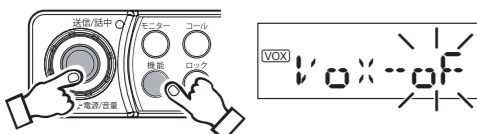
- キーロックになります。キーロック中は、【Om】が表示されます。
- 2 キーロックを解除するには、**ロックキー**を3秒以上押します。
 - 【Om】の表示が消え、キーロックが解除されます。

VOX 機能

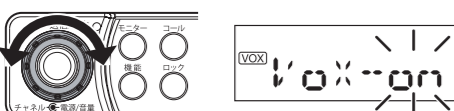
シンプルモードでは、VOX 機能[※]を設定すれば、PTT キーを押さなくても通話することができます。声を出せば、声を検出して送信し、声を出すのを止めると受信に戻ります。他のモードでは、VOX 機能および VOX 機能の感度は設定できません。

※ VOX 機能を使用される時は、必ずシンプルモードの PTT 機能設定を PTT に設定してください。

- 1 **電源・音量ツマミ**を押して、電源を切ります。
- 2 **機能キー**を押したまま、**電源・音量ツマミ**を2秒以上押します。

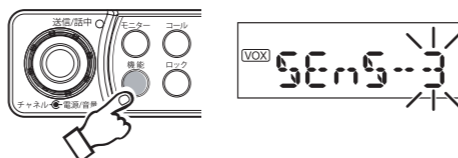


- 電源が入り、【GX100】と表示された後、VOX 機能の選択が表示されます。
- 3 **設定変更ツマミ**を回し、設定を【on】にします。



- VOX 機能がオンになります。

- 4 **機能キー**を押して、VOX 機能の設定を決定します。



- 設定した VOX 機能が決定され、VOX 感度の選択が表示されます。
- VOX 感度の初期値は、3 が設定されています。

- 5 **設定変更ツマミ**を回し、VOX 感度を設定します。



- VOX 感度は 1~5 の 5 段階です。
- VOX 感度の値が大きいほど小さな音でも送信します。

- 6 **機能キー**を押して、VOX 感度を決定します。

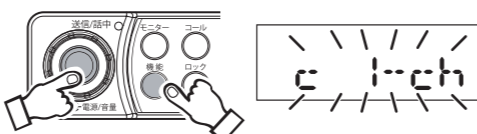
- 7 **電源・音量ツマミ**を押して、電源を切ります。

- 電源を切っても再度電源を入れると、設定した内容で動作します。

1mW 送信機能

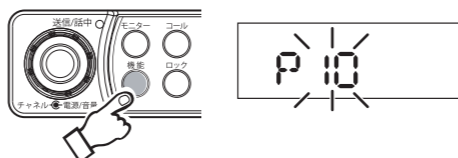
リピーターモードおよびセミデュプレックスモードのとき、送信出力を 1mW に設定できます。送信出力を 1mW に設定すれば、制限時間無しで通話ができます。ただし、**送信出力を 1mW に設定すると通話できる範囲は狭くなります。**

- 1 **電源・音量ツマミ**を押して、電源を切ります。
- 2 **機能キー**を押したまま、**電源・音量ツマミ**を2秒以上押します。



- 電源が入り、【GX100】と表示された後、機能の選択が表示されます。設定しているモードにより、表示される機能は異なります。

- 3 **機能キー**を何度か押し、送信出力設定にします。



- 初期値は【P10】(送信出力 10mW) が設定されています。
- **モニターキー**を押すと逆の順序で機能が選択できます。

- 4 **設定変更ツマミ**を回し、設定を【P1】にします。



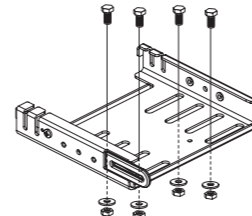
- 送信出力が 10mW になります。
- 5 **機能キー**を押して、送信出力を決定します。
 - 6 **電源・音量ツマミ**を押して、電源を切ります。
 - 電源を切っても再度電源を入れると、設定した内容で動作します。

※フルデュプレックスモードの場合、送信出力は 1mW に設定されています。通話距離を長くしたい場合には、送信出力を 10mW に変更してください。但し、送信出力を 10mW に設定すると、通話時間は 3分に制限されます。

取付方法

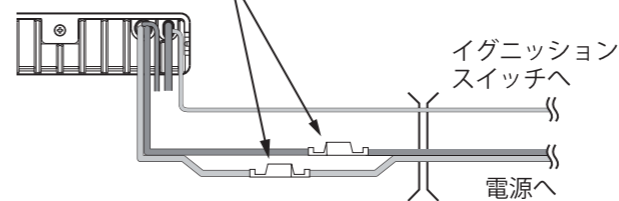
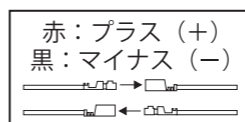
本体の取付方法

- 1 付属している本体取付金具と本体取付金具用ビス一式を用意します。
- 2 本機を取り付けたい場所に金具の位置に合わせ、穴を開けます。
- 3 本体取付金具用ビス一式のビスとナットまたはセルフタップネジでネジ止めします。

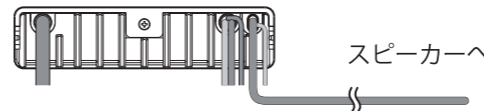


本体取付金具は上部または下部のどちらでも取り付けできます。

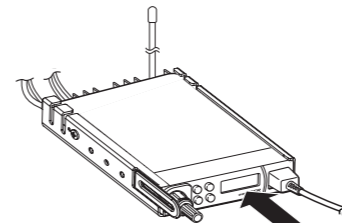
- 4 本体電源ケーブルとバッテリー側電源ケーブルを接続します。電源ケーブルは赤線を＋極に、黒線を－極(アース)に接続してください。
- 5 車両でお使いの場合、車両の電源投入投入に連動して自動的に電源が入るようにする場合は、イグニッションケーブルを接続します。イグニッションケーブルが接続されている場合、本体の電源スイッチは無効になります。



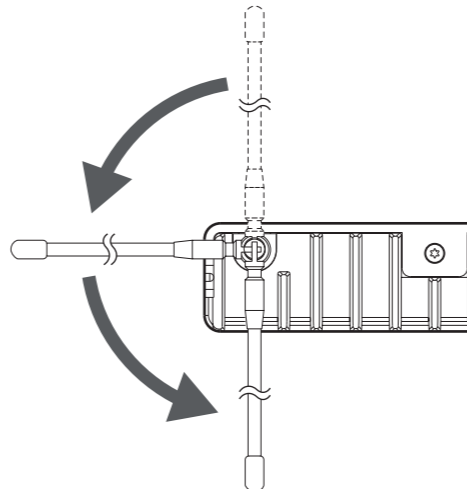
- 6 本体スピーカーケーブルと付属の外部スピーカー (CSK500) を接続します。



- 7 本体を取付金具に取り付けます。



- 8 アンテナの向きを調整します。



通信の機能(モード)の切り替え

通信の機能(モード)について

本機は、お使いになる状況に合わせて通信の機能(モード)を切り替えることができます。

■シンプルモード

シンプルモード(単信通信動作)は、相手の方とチャンネルまたはチャンネルとトーンを合わせて交互に通話を行う方式です。

モード選択時の表示	通話時の表示例
SIMPL*	Tail c 17t-36 17チャンネル/トーン 36

■セミデュプレックスモード

セミデュプレックスモード(半複信通信動作)は、リピーター(中継器)を介して、シンプルモードと同様に相手の方とチャンネルとトーンを合わせて交互に通話を行う方式です。リピーターを介することで、通話範囲が広がります。

モード選択時の表示	通話時の表示例
SEMI*	Tail c 15t-08 15チャンネル/トーン 08

■リピーターモード

リピーターモード(中継器動作)は、本機をリピーター(中継器)として、他の無線機の中継を行います。

モード選択時の表示	設定時の表示例
REPETA	Tail c 7t-19 7チャンネル/トーン 19

■フルデュプレックスモード

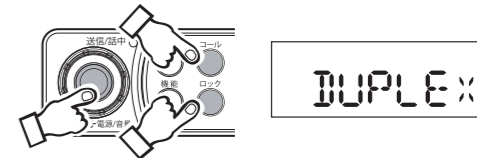
フルデュプレックスモード(複信通信動作)は、相手の方のコード番号を選び、相手の方とチャンネルを合わせて、電話のように同時に通話を行う方式です。また、同じグループ内を一斉に呼び出すこともできます。

モード選択時の表示	通話時の表示例
DUPLE*	Tail GP 18--04 18チャンネル/相手コード番号 04

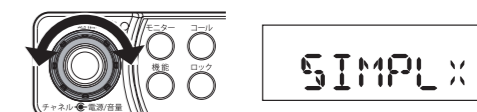
※工場出荷時は、フルデュプレックスモードになっています。ただし、本機のリセットを行うと、設定していたモードに戻ります。

通信の機能(モード)の切り替え方について

- 1 **電源・音量ツマミ**を押して、電源を切ります。
- 2 **コールキー**と**ロックキー**を押したまま、**電源・音量ツマミ**を押して、電源を入れます。
 - 電源が入り、フルデュプレックスモードの選択が表示されます。



- 3 **設定変更ツマミ**を回しモードを選択します。



- 4 **機能キー**を押して、選択したいモードを決定します。
- 5 **電源・音量ツマミ**を押して、電源を入れ直します。

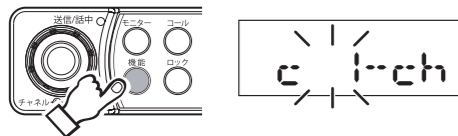
各モードでの通話

各モードで通話を行うときは、チャンネル、チャンネルおよびトーン、または相手方のコード番号等を選択して通話を行います。チャンネルとトーンなど通話に必要な設定は、予め登録しておく必要があります。通話に必要な設定の登録や変更については、お買い上げいただいた販売店または CSR カスタマーサポートにお問い合わせください。

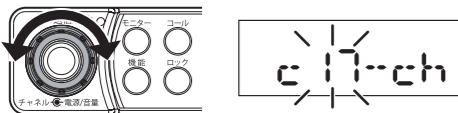
シンプルモードおよびセミデュプレックスモード

相手の方とチャンネルまたはチャンネルとトーンを合わせます。セミデュプレックスモード時は、お使いになるリピーターともチャンネルとトーンを合わせます。10 秒間何も操作しないと、変更した時点の状態が決定されます。セミデュプレックスモード時は、表示部に「半複信」が表示されます。

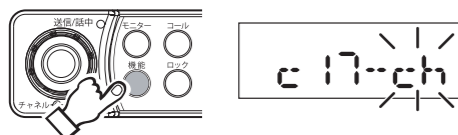
- 1 機能キーを押します。
 - チャンネルが変更可能となり点滅します。



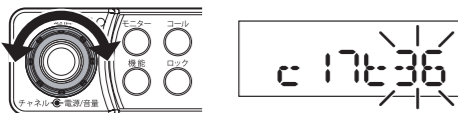
- 2 設定変更ツマミを回し、チャンネルを選択します。



- 3 機能キーを押し、選択したチャンネル決定します。
 - トーンが変更可能となり点滅します。



- 4 設定変更ツマミを回し、トーンを選択します。

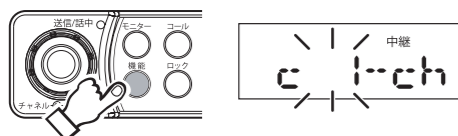


- 5 機能キーを押し、選択したトーンを決定します。
 - トーンの点滅が点灯に変わり変更が終了します。

リピーターモード

本機を介して通話を行う無線機同士とチャンネルおよびトーンを合わせます。10 秒間何も操作しないと、変更した時点の状態が決定されます。

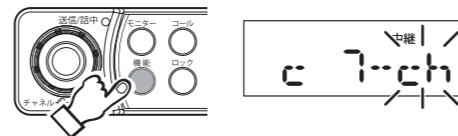
- 1 機能キーを押します。
 - チャンネルが変更可能となり点滅します。



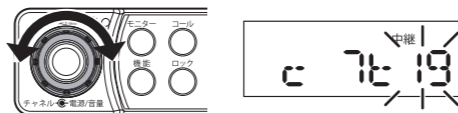
- 2 設定変更ツマミを回し、チャンネルを選択します。



- 3 機能キーを押し、選択したチャンネル決定します。
 - トーンが変更可能となり点滅します。



- 4 設定変更ツマミを回し、トーンを選択します。



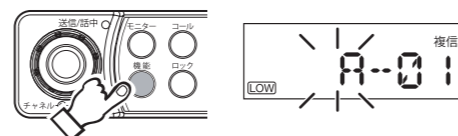
- 5 機能キーを押し、選択したトーンを決定します。
 - トーンの点滅が点灯に変わり変更が終了します。

注意：トーンはチャンネルごとに設定してください。

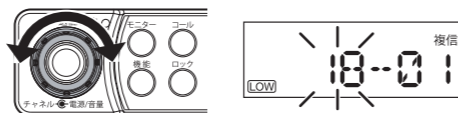
フルデュプレックスモード

相手の方とチャンネルを合わせ、コード番号を選びます。または、一斉呼び出しを行います。10 秒間何も操作しないと、変更した時点の状態が決定されます。

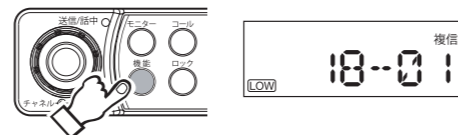
- 1 機能キーを押します。
 - チャンネルが変更可能となり点滅します。



- 2 設定変更ツマミを回し、チャンネルを選択します。



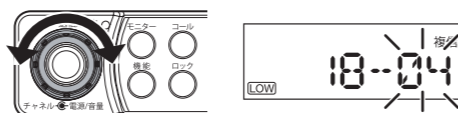
- 3 機能キーを押し、チャンネルを決定します。
 - チャンネルを【A】に設定すると、MCA(マルチ・チャンネル・アクセス)モードになります。



- 4 コード番号の変更状態になります。
 - コード番号が変更可能となり点滅します。



- 5 設定変更ツマミを回し、コード番号を選択します。



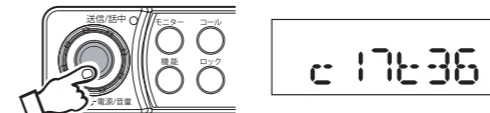
- 6 機能キーを押し、選択したコード番号を決定します。
 - コード番号の点滅が点灯に変わり変更が終了します。

注意：一斉呼び出し時、呼び出された方(被呼側)から終話を行うと、再接続するために再度呼び出されます。

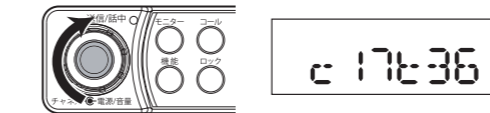
基本の操作

起動と待受および受信

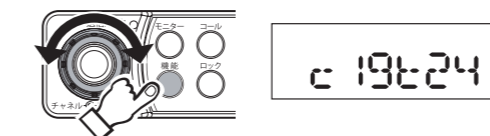
- 1 電源・音量ツマミを押します。
 - 電源が入り、表示部が点灯します。



- 2 電源・音量ツマミを半分くらい回します。

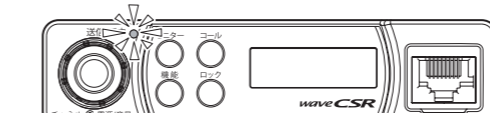


- 3 設定変更ツマミと機能キーを使ってチャンネルとトーンまたは相手の方のコード番号を変更します。



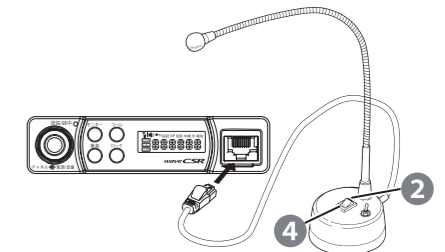
- 設定変更ツマミを右(時計方向)に回すとチャンネルやトーン番号がアップします。
- 設定変更ツマミを左(反時計方向)に回すとチャンネルやトーン番号がダウンします。
- 機能キーを押すと、設定できる項目の決定および移動が行えます。

- 4 信号が入ると送信 / 話中表示が緑色に点灯することを確認します。



- トーンが設定されている場合は、トーン番号が一致した場合にスピーカーより音声聞こえてきます。一致しない場合は、信号強度表示(📶)は表示されますが、スピーカーより音声は聞こえません。

送信



※本機の送信は、オプションのスタンドマイク(CSM510 BまたはCSM520 B)のPTTスイッチにより行います。スタンドマイクを外部マイク端子に接続してください。

- 1 送信する前には必ず送信 / 話中表示が消えていることを確認します。
- 2 送信するには、スタンドマイクの PTT スイッチを ON 側にします。
- 3 マイクに向かってゆっくりと明瞭に話します。
 - 通話時間は 3 分間です。通話時間が残り 10 秒になると「プブ」という音でお知らせします。
 - 本機をリピーターモードまたはフルデュプレックスモードに設定時は、送信出力を 1mW に設定できます。送信出力を 1mW に設定すると制限時間無く通話ができます。
- 4 送信を止めるには、スタンドマイクの PTT スイッチを OFF 側にします。

注意：スタンドマイクの PTT スイッチを ON にして送信開始した場合は、PTT スイッチを OFF にして送信停止してください。本体のコールキーを押して送信開始した場合は、コールキーを押して送信停止してください。

閉局

送受信が終わり閉局する時は、その旨を相手局(基地局または移動局)に伝えてから電源・音量ツマミを押して電源を切ります。電源を切ると表示部が消えます。